

みんなシェアする
イキイキ
Styling
Vol.4

近江八幡市

安土町
界隈

約440年前、織田信長や明智光秀が駆け巡った歴史と水の町
安土水辺と歴史の
まち巡り

ウォーキングの目安
距離:4.2km
所要時間:約52分
歩数:6000歩
消費カロリー:140kcal
あんころ餅1個分



安土駅の前から出発
安土駅の目印は、安土城の天主閣をモチーフに、朱色を配した八角形の塔。町めぐりはここからスタートします。
はじめて安土町を訪れる方はまず駅舎内の観光案内所を訪れてみましょう。観光相談にも対応してくれます。インターネットでは探せない地元ならではの情報と出会えるかもしれません。
駅前には、織田信長公像が建っています。
天下統一の拠点となる安土城の築城を指図している姿とされています。



JR安土駅
※駅周辺には数カ所の有料駐車場があります。

近江八幡市安土町といえば、戦国時代の英雄「織田信長 ゆかりの町。信長は、天下統一の拠点として、1576年(天正4年)から城と城下町を築き始めました。しかし、天主の完成からわずか3年、1582年(天正10年)の本能寺の変で信長は倒れ、天主やその周辺の建物も同年に焼失。地上から姿を消したのです。
イキイキスタイリング第4回は、明智光秀とともに再注目される安土町を訪ねました。水辺や街並みに歴史の余韻を楽しむ散策コースと、人と文化、歴史の交流する場所「安土文芸の郷」や「安土城天主信長の館」をご紹介します。

滋賀県立安土城考古博物館
安土城天主信長の館
文芸セミナー
文芸の郷レストラン

地元住民の憩いの場

「北川湧水」

室町時代、常楽寺港として栄えていたこの界隈には数多くの湧水が湧き出しています。北川湧水は、いまも町内の生活水として使われています。円満地蔵尊の横から湧き出ていて、足湯ならぬ足涌（あしゆ）が設置されていて、地元住民の憩いの場にもなっています。



並んで座れる足涌

港町の面影をたたえる

「常浜水辺公園」

常浜は、室町時代に観音寺城の外港で港町として栄え、明治初期までは琵琶湖を周航する蒸気船の寄港地として活気にあふれていました。現在は、公園として親しまれており、「常の浜さくらまつり」では日時限定の「花見舟」も出るようになりました。



常浜水辺公園

ここバエポイント!!

信長が愛した茶の湯の水源

「梅の川」

織田信長の家臣、武井夕庵がこの水で茶を点て信長に献上したところ、たいそう気に入って、茶会で用いるようになったと伝えられています。

信長が再興した伊賀と近江の浄土宗総本山「浄厳院」

1579年(天正7年)に行われた浄土宗と日蓮宗による安土問答で浄土宗が勝利。その喜びを威勢よく唱えた「かちどぎ念仏」は浄厳院独特のものとして今に伝えられています。



入母屋造の楼門

「沙沙貴神社」

近江源氏佐々木氏発祥の地として全国の佐々木さん、またその流れを汲む姓を持つ方々から現在でも篤い信仰を集める神社です。シンボルツリーである「なんじゃもんじゃ(ヒトツバタゴ)」は伊勢神宮から贈られたもので、花は粉雪が降り積もったように白く美しく、例年5月中旬に満開の時を迎えます。

ヴォーリズ初期の

貴重な作品「旧伊庭家住宅」

1913年(大正2年)、旧住友財閥の総理事である伊庭貞剛が、四男の伊庭慎吉(沙沙貴神社神主、安土村長などを歴任)のためにつくられた邸宅です。



旧伊庭家住宅

人と文化、歴史の交流する場所 安土文芸の郷と安土城天主 信長の館

ここバエポイント!!



文芸セナリヨ

「文芸の郷」は1994年(平成6年)、安土桃山時代にヨーロッパとの文化交流拠点となった国際都市、安土の象徴として誕生しました。復元された安土城天主を展示している信長の館をはじめ、バロック調の音楽ホールとしてパイプオルガンも備える文芸セナリヨ、総合体育館や多目的ホールとしてスポーツや文化交流に活用されるあづちマリエート、



旧安土町が国際交流を行った都市の紋章が配されている日時計



滋賀県立安土城考古博物館

蘇った平成の名城

「安土城天主 信長の館」

文芸の郷のシンボルとして一角をなすのが「安土城天主 信長の館」。館内には、スペインセビリア万国博覧会における日本館のメイン展示物として復元された安土城天主最上部二層が会期終了後に移築され、一般に公開されています。セビリア万国博覧会では再現されなかった金箔瓦を葺いたひさし屋根や天人の絵が描かれた5階の天井、また、金の鯨をのせた大屋根も復元、展示されています。



安土城天主 信長の館

開館状況につきましては、各施設にお問い合わせください。

【入館料】安土城天主信長の館 大人600(500)円・学生350(250)円・小人170(120)円
安土城考古博物館 大人900(690)円・高大生640(470)円・小中生420(310)円・県内65歳以上の高齢者460(350)円

※安土城考古博物館特別展については別に定める額が必要 ※()内は両館とも20名以上の団体料金